

# 令和5年度相模原市協働事業提案制度 公開事業報告会

## もくじ

P 1

事業評価及び公開事業報告会の方法

P 2

公開事業報告会スケジュール

P 3

自己評価指標等の一覧

P 5

各事業のふりかえりシート

日時 令和5年6月17日（土）午後1時～

会場 相模原市立産業会館 4階 特別会議室

# 事業評価及び公開事業報告会の方法

## 1 事業報告会の対象となる事業

協働事業提案制度を活用しての事業実施は最大3年度まで可能で、令和4年度は5事業が行われました。このうち、今回の事業報告会で成果等を発表するのは次に該当する事業です。

- 令和4年度をもって、同制度を活用しての実施期間を終了したもの（3事業）
- 令和5年度が最終年度となるもの（2事業）

※令和5年度が1年目で次年度継続を希望する事業の進捗等については、10月頃開催予定の中間ヒアリングで報告します。

## 2 報告書（ふりかえりシート）の作成

事業報告会に先立って、協働事業の過程や成果を自己評価する報告書（ふりかえりシート）を、実施団体及び事業担当課双方の合意により作成していただきました。

## 3 評価の数値化等

ふりかえりシートには、事業の概要のほか、事業の達成度などを記号化・数値化して示してあります。

### 自己評価指標

「パートナーシップの原則」、「取り組みにあたっての関係性のふりかえり」、「事業の妥当性と効果」、「協働したことの効果」の4区分について、A（80%以上できた）、B（60%以上できた）、C（十分にできなかった）の3段階で評価を行いました。

### 自己評価点

A～Cで評価した4区分をさらに19に細分化し、a・b・c・dの4段階でチェックのうえ、a＝4点、b＝3点、c＝2点、d＝1点と置き換え、76点満点で点数化しました。

## 4 報告会の方法

1事業あたりの事業結果報告は10分間です。それを受けて、審査会による質疑応答（8分程度）を行います。

# 令和5年度 公開事業報告会スケジュール

日時 令和5年6月17日(土)  
午後1時20分～午後3時10分  
会場 産業会館 4階 特別会議室

## 進め方

- 団体及び事業担当課は、協議の上「ふりかえりシート」を事前に作成してください。
- 当日は、原則としてパワーポイントを使用し、成果報告を行ってください。(10分)
- 報告を受け、審査員が質問や助言を行います。(8分)

時間	区分	内容	事業概要	団体名	事業担当課	最終年度
13:20	開会					
13:20	市民	防災意識の普及啓発、持続可能なエネルギーと人の繋がり活性化事業	電気をはじめとした災害時に役立つ知識や防災・減災に資する知識、自助や共助の重要性などについて、幅広い世代へ普及啓発するため、イベントへの出展や、関心のある団体に対して出前ワークショップを実施する。	藤野電力	危機管理課 緑区役所地域振興課 藤野まちづくりセンター	昨年度
13:40	行政	オープンデータ活用促進事業	オープンデータの利活用促進のため、市民に役立つオープンデータのニーズを掘り起こし、目に見えるサービス・アプリケーションの活用事例づくりを行い、オープンデータ活用実績として周知を行う。	さがみはらIT協同組合	DX推進課	昨年度
14:00	休憩(10分)					
14:10	市民	市民参加による「さがみはら散歩」作成事業	相模原を市民がよく知り、全国に発信していくために、相模原を紹介する書籍を市民参加により作成したい。書籍には、文章、写真、地図、文芸作品などのほか、歴史、文化等を掲載し、総合的に相模原を知る資料とする。	市民講座 まなびのライブ塾	観光・シティプロモーション課 生涯学習センター	昨年度
14:30	市民	「住んでみたいまち相模原」をめざす移住・定住促進事業	人口減少の時代にあって、「住んで良かった」と思えるまちづくりに貢献するために専用HPの運用、移住・定住に関する全般的な相談事業、中山間地域の住環境整備及び空き家対策等の事業を実施する。	藤野観光協会	緑区役所地域振興課 観光・シティプロモーション課 住宅課	今年度
14:50	市民	食品ロスと食の格差解消で、夢と希望が持てるまちづくり	規格外や賞味期限間近の食材が廃棄されている一方、明日の食事にも困る世帯に食材を適宜配布することで循環型社会を実現させ、食の格差を削減することで、市民の暮らしの満足度を高めて、子どもや若者をはじめ誰もが生涯にわたり活躍でき、笑顔と希望があふれるまちを次代につなぐことを目指します。	フードコミュニティ	青少年学習センター 子育て給付課 資源循環推進課	今年度
15:10	閉会					

協働事業提案制度事業のふりかえりシート 自己評価指標及び自己評価点 一覧

① 13:20 終了	事業の名称	防災意識の普及啓発、持続可能なエネルギーと人の繋がり の活性化事業																		
	事業実施団体	藤野電力																		
	事業担当課	危機管理課、緑区役所地域振興課、藤野まちづくりセンター																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった) 自己評価点 (a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	B					B				A					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	3	3	3	3	2	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	69

② 13:40 終了	事業の名称	オープンデータ活用促進事業																			
	事業実施団体	さがみはらIT協同組合																			
	事業担当課	DX推進課																			
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった) 自己評価点 (a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																					
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計	
自己評価指標	A					A				A					A						
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	3	4	4	4	4	4	3	3	72

③ 14:10 終了	事業の名称	市民参加による「さがみはら散歩」作成事業																		
	事業実施団体	市民講座 まなびのライブ塾																		
	事業担当課	観光・シティプロモーション課、生涯学習センター																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった) 自己評価点 (a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A				A					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	76

協働事業提案制度事業のふりかえりシート 自己評価指標及び自己評価点 一覧

④ 14:30 今年度最終	事業の名称	「住んでみたいまち相模原」をめざす移住・定住促進事業																		
	事業実施団体	藤野観光協会																		
	事業担当課	緑区役所地域振興課、観光・シティプロモーション課、住宅課																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった)																				
自己評価点 (a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A				A					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	76

⑤ 14:50 今年度最終	事業の名称	食品ロスと食の格差解消で、夢と希望が持てるまちづくり																		
	事業実施団体	フードコミュニティ																		
	事業担当課	青少年学習センター、子育て給付課、資源循環推進課																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった)																				
自己評価点 (a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A				A					A					
No	1	2	3	4	5	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	3	4	4	4	3	3	72

## 協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください ⇒		1	
事業の名称	防災意識の普及啓発、持続可能なエネルギーと人の繋がり活性化事業			
団体の名称	藤野電力			
事業担当課	危機管理課、緑区役所地域振興課、藤野まちづくりセンター			
事業の概要	電気をはじめとした災害時に役立つ知識や防災・減災に資する知識、自助や共助の重要性などについて、幅広い世代へ普及啓発するため、イベントへの出展や、関心のある団体に対して出前ワークショップを実施する。			
具体的な取組みの状況	今年度はコロナが完全にクリアになったわけではなかったが、マスク着用等でのイベント開催などは可能になり、出展が可能なイベントには出展を行い、防災の啓蒙を行なった。さがみはら環境まつりや、防災フェア等での出展をきっかけに講座に足を運んでいただいたり、ボーイスカウトでの防災体験の機械などにもつなげることができた。また、独自の取り組みとしてはVRでの防災体験や、オールナイト防災と称して、夜通し建物内に滞在をしたり、室内での煙の体験を行うなどの体験講座など、少し毛色の違う防災体験を実践できた。防災を全面的に出すと、若年層や子供連れが敬遠してしまうという点をクリアし集客できる効果については実感することができた。DIYやアウトドア体験を通じて、特別な時の防災ではなく、日々の備えを意識させる啓蒙には効果があったのではないかと感じている。			
役割分担	実施団体の主な役割 公的な情報告知では届きづらい若年層を中心とした層への防災の啓蒙とつながり作り			
	市の主な役割 情報の告知や防災に関する情報提供等の活動支援。			
事業効果	市民ニーズに対応できた点 市単独での防災啓発では難しい若年層や親子世代に向けて、防災意識の普及啓発を効果的に行う事ができた。また、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いた事もあり、相模原市SDGs推進課が主催するSDGsEXPOや、ミウヰ橋本で実施したさがみはら環境まつり等、事業開始当初予定していた規模のイベントを通して、幅広い世代に向けた情報発信を行うことができた。			
	行政の効率化につながった点 団体が持つ講義メニュー等を活用して、幅広い世代に効率的な周知活動を行う事が出来た。			
事業終了後の方向性等	昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。 団体独自の活動のほか、今年度もブース出展が決定している相模原市総合防災訓練を始めとした防災イベントの機会を捉えて、市と団体で協力をして、防災の啓蒙活動等を実施していきたいと考えている。また、団体の取り組みとして、DIYやアウトドア体験を通した防災意識の向上や、地域の運動会に水汲みレースなどを組み込む等、様々な関係団体との繋がりも通じて、実現を目指したいと考えている。			
3年間の総事業費と年度ごと内訳	11,842,458 円	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		4,088,895 円	3,606,215 円	4,147,348 円
上記のうち市負担金	8,205,000 円	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		3,150,000 円	2,570,000 円	2,485,000 円

事業の名称	防災意識の普及啓発、持続可能なエネルギーと人の繋がり活性化事業
-------	---------------------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

<b>A：協働の基本原則・・・</b> 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたか。	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 市ホームページでの取り組み紹介を行った。また、団体のホームページやSNSを活用して情報発信を行った。また、もっと打ち合わせ等の機会を設けるべきであったと感じている。	自己評価			
		b			
<b>B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・</b> お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができましたか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができましたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができたか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができましたか。	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) メールや電話での情報共有は定期的に行っていたが、対面での打ち合わせ等については、あまりできなかった。	自己評価			
		b			
<b>C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！</b> (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだと思いましたか。(事業の必要性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができたか。(目標達成度)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだと思いましたか。(費用対効果)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたか。(市民満足度)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) この事業の中でも大きな目的である、幅広い世代への情報発信は十分行う事が出来た。	自己評価			
		a			

D : 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい		いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。 (協働の必要性)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。 (役割分担の妥当性)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。 (相乗効果)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。 (他団体や地域社会など外部への波及効果)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。 (市民力・自治力の向上)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価		
	団体として、協働の取り組みである点で信頼性が増し、多くの方に体験してもらったことができた点はよかったと考えている。また、テレビ、新聞等への取材へも繋がっている。新しい担い手の確保は、今後の課題である。	a		

E : 20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
公的な情報発信では届きづらい層への告知や意識の啓蒙、SNS等を通じた情報発信等ができた。	市単独での防災啓発では難しい層(関心の薄い若年層や低学年の児童がいる親子世代)への普及啓発が行えた。

F : 21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
市民協働事業提案制度は市民の声を反映できる制度として先駆的なケースであると思う。ただ、担当課にすると業務が増えることにはなり、積極的には向き合いづらい点は構造的な課題なのではないかと思われる。(応募時の印象)把握はしてないが、これに伴う市役所内での人員増加や予算追加などもできると、より可能性が高まるのではと感じた。	情報共有で苦労する場面が少しあった。

G : 22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
行政だけでは届かない箇所や取り組みづらいテーマと一緒に取り組める先駆的な制度であると感じています。是非、積極的に活用して、新しい自治体と市民の可能性に一石を投じていただけたらと思います。	それぞれの得意分野を活かせるように、コミュニケーションをとって、課題解決に取り組んでいただきたい。

H : 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
	市の事業としては難しい新しい防災の取組として、市民の防災意識の向上につながるため、今後も協力できる部分は協力して活動していきたい。

写真添付欄



コメント記載欄

避難所運営ゲームを実施したあと、VR映像の収録を行いました。多くの方が避難所の運営ルールが曖昧だと苦勞することを感じ、自分が何ができるのかを考えるきっかけになったという声を多数いただきました。

写真添付欄



コメント記載欄

さがみはら環境まつりでの出展。子どもたちの多くはスタンプラリーにやや夢中ではありましたが興味のある子どもや、大人の立ち寄りがあり、啓蒙面での広がりがあるイベントでした。

写真添付欄



コメント記載欄

防災サバイバル講座&WS in 銀河の森プレイパーク アウトドア的な取り組みと防災の準備は近いものがあります。野外で紙パックによる食器作りや火起こし、また、震災や台風時の経験談を語ってもらうことのリアリティはかなり色濃く、子どもたちに強い印象を与えることができました。

写真添付欄



コメント記載欄

屋内での煙体験は日常的な場所に煙が発生するということの怖さや、そのスピード感を味わうことができ、元気にはしゃいでいた子どもたちが緊張感を持って避難する体験などを行うことができました。アトラクション的な感覚だけでなく、怖さも少し感じてもらうことは必要な体験ではないかと理解することができました。

## 協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください ⇒	2
事業の名称	オープンデータ活用促進事業	
団体の名称	さがみはらIT協同組合	
事業担当課	DX推進課	
事業の概要	オープンデータの利活用促進のため、市民に役立つオープンデータのニーズを掘り起こし、目に見えるサービス・アプリケーションの活用事例づくりを行い、オープンデータ活用実績として周知を行う。	
具体的な取組みの状況	<p>令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画会議、関係各所への周知及びヒアリング（Web会議及びメール等活用）</li> <li>ニーズ把握の手法検討 （当初計画）相模原「市民桜まつり」等イベントを活用した市民アンケート調査 （現実対応）桜まつり等イベント中止のため、Webアンケートやメール等で調査</li> <li>市内の子育て支援サークルを通じてデータニーズ調査アンケート実施 →64件の回答が得られた（アンケート期間：2020/11/2～2021/3/5） →例：相模原市で子育てするための情報は満たされていますか？ [いいえ:78%]</li> <li>ニーズ調査結果に基づき、オープンデータに関する庁内各部門との調整実施</li> </ul> <p>令和3年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリコンテストの実施方法の企画・立案 →先進事例として奈良県生駒市にヒアリングし、実行体制や成果物等を伺った →プログラマー向けアプリセミナーを企画（セミプロ向け） →一般（含学生等）向けアプリセミナーを企画（学生の夏休み期間）</li> <li>「ユニコムプラザさがみはら」との連携 →学生を中心とした「No t i o n」アプリセミナー &amp; YouTube作成を計画 -- コロナウイルス感染症対策による業務縮小のため活動中断 --</li> </ul> <p>令和4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「Scratch」講習会～子ども達が習うプログラミング言語Scratchを大人も体験してみませんか。相模原市オープンデータの表示に挑戦～の企画・実施</li> <li>令和5年3月25日（土）：ユニコムプラザさがみはら において実施</li> </ul>	
役割分担	実施団体の主な役割	市民ニーズの掘り起こし オープンデータ活用イベントの開催 イベント応募者の募集
	市の主な役割	行政各部門との調整 啓蒙活動への協力・支援 運用経費の分担
事業効果	市民ニーズに対応できた点	市民ニーズの的確な把握に基づき、市民の利用目的に見合った有益なデータを公開するため、さがみはらIT協同組合の人的ネットワークを生かし、必要最小限のコストで対象分野やニーズ把握に努めた。
	行政の効率化につながった点	公開側である行政の視点だけでなく、利用者側である「市民」の視点を取り入れ、双方の知見を活かし市民ニーズに適合したデータを公開するプロセスについて、本事業での「協働」により効率的な取組が推進できた。
<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」 をご記入ください。</p>		

事業終了後の  
方向性等

今後もそれぞれに、市は市民ニーズに適合したデータ公開を継続し、実施団体はデータ活用サービスのビジネス化の検討を継続するが、「協働」の取組は完了する。

3年間の総事業費と年度ごと内訳	150,000 円	2年度	3年度	4年度
		0円	0円	106,370円
上記のうち市負担金	100,000 円	2年度	3年度	4年度
		0円	0円	51,370円
事業の名称	オープンデータ活用促進事業			

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

<b>A：協働の基本原則・・・</b> 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、令和2年、3年(特に3年度は活動中断)と十分な活動ができなかったが、最終年度には「Scratch」講習会～子ども達が習うプログラミング言語Scratchを大人も体験してみませんか。相模原市オープンデータの表示に挑戦～を企画・実施した。	自己評価			
		A			
<b>B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・</b> お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 協働の基本原則の上で互いの役割分担を認識し、目的の達成に向けて協力して課題に対応し、主体となって事業を進めた。	自己評価			
		A			
<b>C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！</b> (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったと思いますか。(事業の必要性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだったと思いますか。(費用対効果)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 令和2・3年度においては、市民の利用目的に見合った有益なデータを公開するため検討を重ね、最終年度の令和4年度には、さがみはらIT協同組合の事業であるプログラミングクラブ活動を基に、「Scratch」講習会を企画し、相模原市オープンデータ利活用を促進する取組を実施できた。	自己評価			
		A			

D : 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	地域に根ざしたオープンデータの活用というテーマを実現、活性化するには行政と民間の協力が不可欠であり、今後、協働事業という形でなくとも相互協力の姿勢が重要と考える。	A			

E : 20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
市民への啓蒙にあわせて、市内IT事業者である協同組合の会員企業自身も市のオープンデータに対する取り組みを認識することができた。また、市内子育てサークルの代表ともオープンデータをテーマに意見交換等を行えたのも良かった。	市では平成26年度からオープンデータを公開しているが、公開データの利活用が進んでいない(活用事例4件)。本事業は、市民ニーズに適合したデータの公開に伴い、市民による自発的かつ積極的なデータの利用が進み、データ利用が様々な地域課題の解決や利便性の向上等に寄与している状態を目指すものであり、市民サービスの充実につながる取組みであ

F : 21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
他自治体へのインタビューなどを参考に当初からリアルイベントの開催を活動目標としていたため、コロナ対応で身動きが取れなくなってしまった。全てオンラインで完結するような啓蒙策やその場合の効果などももっと検討できれば良かった。	アフターコロナ、Withコロナの観点を取り入れた、オリジナルのある地域課題の解決や市民の利便性向上等に寄与するサービスの充実を志向したい。

G : 22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
市民提案の場合は既に実施団体自身が長年に渡り経験してきた課題認識やインフラ、実施したい具体的なプランなどがあり、初年度から本格的に取り組むことができる。行政提案の場合は初年度に調査、計画立案が行われることも多く、特に2年目、3年目のスピーディーな事業推進が重要と考えられる。可能であれば当初から複数プランを考えておくのが良い。	行政の視点だけではなく、利用者側である「市民」の視点を取り入れ、双方の知見を活かして地域に根ざした活動テーマを実現、活性化するには行政と民間の協力が不可欠。

H : 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄

I : 24 取組の様子 (写真とコメント) ※写真はできるだけ入れるようにしてください!

写真添付欄



コメント記載欄

新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、令和2年、3年(特に3年度は活動中断)と十分な活動ができなかったが、最終年度には「Scratch」講習会〜こども達が習うプログラミング言語Scratchを大人も体験してみませんか。相模原市オープンデータの表示に挑戦〜を企画・実施した。

写真添付欄



コメント記載欄

実施団体の事業であるプログラミングクラブ活動を基に、「Scratch」講習会を企画し、相模原市オープンデータ利用を促進する取組を実施できた。

写真添付欄



コメント記載欄

実施団体のプログラミングクラブ活動は今後も継続する予定であり、「協働」の取組は完了するが、市は市民ニーズに適合したデータ公開を継続し、実施団体はデータ活用サービスのビジネス化の検討を継続していく。

写真添付欄



コメント記載欄

最年少は小学1年生、最高齢は70歳超えの方と、非常に幅広くご参加いただきました。また、大学生、高校の教師、主婦、定年退職後の求職者、老後の趣味と、多彩なお立場の方がおられ、これだけ広範囲の層に訴求するテーマはなかなか無いように思われました。(さがみはらIT協同組合講師高坂氏)

## 協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください →	3																				
事業の名称	市民参加による「さがみはら散歩」作成事業																					
団体の名称	市民講座 まなびのライブ塾																					
事業担当課	観光・シティプロモーション課、生涯学習センター																					
事業の概要	相模原を市民がよく知り、全国に発信していくために、相模原を紹介する書籍を市民参加により作成したい。書籍には、文章、写真、地図、文芸作品などのほか、歴史、文化等を掲載し、総合的に相模原を知る資料とする。																					
具体的な取組みの状況	<p>(1) 講座の開催</p> <table border="1"> <tr> <td>令和3年度(2021年)</td> <td>夏講座</td> <td>2講座</td> <td>39名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>秋講座</td> <td>2講座</td> <td>31名</td> </tr> <tr> <td>令和4年度(2022年)</td> <td>春講座</td> <td>8講座</td> <td>127名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>夏講座</td> <td>4講座</td> <td>82名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>16講座</td> <td>279名(のべ人数)</td> </tr> </table> <p>(2) 市PR冊子「さがみはら散歩」の発行</p> <p>①発行日 令和5年3月</p> <p>②発行者 市民講座まなびのライブ塾、相模原市</p> <p>③仕様 A5判 全52ページ</p> <p>④発行部数 3,000部</p> <p>⑤配架施設 公民館、博物館、こどもセンター、各区役所、相模原市観光協会、東京事務所など。(多くの幅広い世代の方に、より効果的なPRをするため配架先を選別した。)</p> <p>⑥市イベントなどでの配布 相模原市民若葉まつり ツアー・オブ・ジャパン相模原ステージ</p> <p>⑦電子書籍(PDF)化し、市及び団体ホームページに掲載</p> <p>(3) 取材、プレス関係、PR活動等</p> <p>①市報道提供(令和5年3月16日)</p> <p>②取材 タウンニュース</p> <p>③プレス関係 FMさがみ、神奈川新聞、武相新聞、タウンニュース(緑区版、中央区版、南区版)</p> <p>④PR活動 市公式(HP、Twitter、Facebook)</p>		令和3年度(2021年)	夏講座	2講座	39名		秋講座	2講座	31名	令和4年度(2022年)	春講座	8講座	127名		夏講座	4講座	82名		合計	16講座	279名(のべ人数)
令和3年度(2021年)	夏講座	2講座	39名																			
	秋講座	2講座	31名																			
令和4年度(2022年)	春講座	8講座	127名																			
	夏講座	4講座	82名																			
	合計	16講座	279名(のべ人数)																			
役割分担	<p>実施団体の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講座の企画・募集・運営(受講者の募集・受付・決定・連絡・会場の設営)</li> <li>団体ホームページを利用した受講者の募集</li> <li>参加者のアンケート調査及びまとめ</li> <li>「さがみはら散歩」作成に伴う現地取材、写真撮影、記事執筆</li> <li>事業経費の負担</li> </ul>																					
	<p>市の主な役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施会場の確保</li> <li>市広報紙への記事掲載</li> <li>講座開催に伴う、講師の派遣依頼等</li> <li>事業経費の負担</li> <li>「さがみはら散歩」作成に伴う関係各課への校正依頼</li> <li>「さがみはら散歩」作成に伴う写真掲載許可申請</li> </ul>																					

事業効果	市民ニーズに対応できた点		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の活力を生かし、ヨガ、朗読、プラネタリアム吟行会など幅広い講座を、3区でバランス良くかつ、定員割れすることなく16講座を開催した。</li> <li>・様々なメディアなどで取り上げられたこともあり、「さがみはら散歩」を求める多くの市民からの問い合わせがあり、5月末現在で発行3,000部中、2,500部を配布した。</li> </ul>		
事業終了後の方向性等	行政の効率化につながった点		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市だけでは、3区でバランス良く多くの講座を開催することができないため、団体の活力を生かし、事業を開催できたことが大きな効率化に繋がった。</li> <li>・本市教育振興計画「学んだことを生かす機会の提供」を体現した。</li> <li>・たまご街道やJAXAなど、市内の様々な名所や施設などのPRができた。</li> <li>・「さがみはら散歩」を求める市民が多かったことから、シビックプライドの醸成に寄与することができた。</li> </ul>		
3年間の総事業費と年度ごと内訳	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した「さがみはら散歩」を通して全国に相模原市をPRするとともに、相模原市民に市への興味や関心を持ってもらい、シビックプライドの醸成を促していく。</li> <li>・団体が講座を開催する際に、協働事業で実施した講座で好評だったプログラムを再開催するなど、今後も多くの生涯学習講座を開催していく。</li> <li>・「さがみはら散歩」を公民館主催講座等で活用したいという依頼もあり、今後さらに地域を巻き込んだ活動に発展させていきたい。</li> </ul>		
上記のうち市負担金	1,907,217 円	R4年度	R3年度
		1,313,850円	593,367円
上記のうち市負担金	1,570,217 円	R4年度	R3年度
		1,033,850円	536,367円

事業の名称	市民参加による「さがみはら散歩」作成事業
-------	----------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

<b>A：協働の基本原則・・・</b> 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい		いいえ	
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、参加者の減少やキャンセル、緊急事態宣言の発令に伴う事業の延期など、必ずしも計画通りに事業を進めることができなかったが、課題はその都度団体と共有し、電話及びメール等で解決に努めた。これとは別に、月1回のオンラインでの打合せを行い、その他の課題を共有し解決策を講じた。	自己評価			A
<b>B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・</b> お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい		いいえ	
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a	b	c	d
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a	b	c	d
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 緊急事態宣言の発令に伴い、令和3年度秋・冬講座の受付を団体から市に変更するなど、互いの立場を理解し、急時でも補完しあえる信頼関係を構築した。	自己評価			A
<b>C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！</b> (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい		いいえ	
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったと思いますか。(事業の必要性)	a	b	c	d
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a	b	c	d
12	事業に要した経費は適切なものだったと思いますか。(費用対効果)	a	b	c	d
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a	b	c	d
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 市民自らが企画・運営する市民を対象とした講座を実施し、その成果を本市の紹介冊子「さがみはら散歩」として作成することは、本市総合計画の基本計画に掲げられた施策である「生涯学習・社会教育の振興」及び「戦略的なプロモーションの実現」に繋がったと捉えている。 また、「さがみはら散歩」の出来栄が非常に良く、当初想定していた以上の反響だったため、シビックプライドの醸成にも寄与できたと考えている。 さらに、今後の団体の活動については、「さがみはら散歩」の配布とともに、団体の知名度向上や、講座参加者の増加など相乗効果の発展が見込まれる。	自己評価			A

D : 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	各々の特性を発揮することにより、事業への効果が高まったと考えられる。今後は、団体に委託している市民講師養成講座などを活用し、次なる担い手の育成に尽力していただきたい。	A			

E : 20 協働のポイント-1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体と市の双方がアイデアを出し合い、課題を共有し、十分に話し合うことができた。まさに「協働」ができた事業となったと考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体と意見交換をすることにより、新たなアイデアが生まれ、市民ニーズが把握することができた。今後の市の事業展開に活かすことができるものと考えている。</li> </ul>

F : 21 協働のポイント-2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の中で事業への関心度、理解度に温度差があった。今後の事業においては、全員参加の意識をより育てていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜見直しを行ってきており、団体との関係も良好であったが、緊急事態宣言の発令などにより、予定通り事業をすすめることができなかったため、「さがみはら散歩」作りのスケジュールがかなりタイトになってしまった。</li> </ul>

G : 22 協働のポイント-3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市政に対して理解が深められるうえに、団体だけでは実現できないことができることが魅力である。ぜひチャレンジしていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民(団体)と行政が協働して事業を行うことで、市民側にも行政側にもメリットがあるため、ぜひチャレンジしていただきたい。</li> </ul>

H : 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「さがみはら散歩」という成果品ができたことは、団体にとって一つのモニュメントになった。「さがみはら散歩」の活用について、また団体の事業について今後も担当課と意見交換を行っていききたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライブ塾に委託している市民講師養成講座などを活用し、次なる担い手の育成に尽力していただきたい。</li> </ul>

I : 24 取組の様子 (写真とコメント) ※写真はできるだけ入れるようにしてください!

写真添付欄



コメント記載欄

令和3年度秋講座「もっと知りたい相模原」

「さがみはら ふるさといろはかるた」「藤野郷土かるた」「さがみはら学習パズルぴーしーず」を使って、遊びながら相模原のことを学びました。相模原の歴史、地理、名所旧跡など、今まで知らなかった相模原を知り、参加者にとって新たな発見がある講座でした。

写真添付欄



コメント記載欄

令和3年度秋講座「たまご街道を歩く」

南区の麻溝台地区の「たまご街道」についての講座を行いました。第1回目は、相模原市立博物館学芸員からたまご街道の歴史、管理栄養士から卵の栄養価を学びました。第2回目は、たまご街道を実際に歩きました。写真は、たまご街道に出店している店長から話を聞いているところです。卵についてや相模原の養鶏の歴史について理解を深めることができました。

写真添付欄



コメント記載欄

令和4年度春講座「ふじのをウォーキング」

相模原市の北西部に位置し、豊かな自然、由緒ある歴史や文化財等が多くある藤野を知る講座を行いました。

藤野の魅力がいっぱいの「藤野郷土かるた」に關係する主な場所を歩きました。緑のラブレターを見て、大榎、森比佐志さんの歌碑、名倉グラウンド、野外彫刻など、藤野を満喫する講座でした。

写真添付欄



コメント記載欄

令和4年度夏講座「公園でヨガしよう」

淵野辺駅から徒歩3分の鹿沼公園は白鳥池、児童交通公園、テニスコートなどがあり、市民に親しまれています。鹿沼公園の木陰でヨガの講座を行いました。

受講者は手足を伸ばしながらたっぴりと新鮮な空気を取り込み、心と身体をリフレッシュしました。

# 協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	4		
事業の名称	「住んでみたいまち相模原」をめざす移住・定住促進事業		
団体の名称	藤野観光協会		
事業担当課	緑区役所地域振興課、観光・シティプロモーション課、住宅課		
事業の概要	人口減少の時代にあって、「住んで良かった」と思えるまちづくりに貢献するために専用HPの運用、移住・定住に関する全般的な相談事業、中山間地域の住環境整備及び空き家対策等の事業を実施する。		
具体的な取組みの状況	<p>(1) 移住・定住促進事業のPR</p> <p>令和3年度 ①移住体験ツアー4回開催 ②県主催移住セミナー1回参加。 ③専用HP「里まっち」ページビュー数46,729</p> <p>令和4年度 ①移住体験ツアー3回開催 ②県主催移住セミナー2回参加。 ③専用HP「里まっち」ページビュー数34,686</p> <p>令和5年度 ①移住体験ツアー4回開催予定(1回開催済み) ②県主催移住セミナー参加予定 ③専用HP「里まっち」ページビュー数4,421(5/31時点)</p> <p>(2) 移住・定住のための総合的マッチング業務</p> <p>令和3年度 問合せ件数160、面談件数64、マッチング件数17世帯36名 令和4年度 問合せ件数119、面談件数53、マッチング件数11世帯22名 令和5年度 問合せ件数23、面談件数18、マッチング件数6世帯14名(5/31時点)</p> <p>(3) その他の取組み</p> <p>令和4年度に「里まちの家」購入ガイドを作成した他、期間を通じて以下の取組を実施</p> <p>①コロナ禍での働き方・暮らし方の変化に対応した移住促進 ②中山間地域にマッチした「里まちの家」化推進 ③金融面からの支援(金融機関と連携) ④法的問題の処理(司法書士と連携)</p>		
役割分担	実施団体の主な役割		
	<p>①事業PRの実施(移住体験ツアー、移住セミナー、HP「里まっち」等の企画、運営)</p> <p>②移住・定住希望者に対する相談業務</p> <p>③不動産所有者に対する不動産の利活用促進相談業務</p> <p>④空き地・空き家のリサーチ業務</p>		
事業効果	市の主な役割		
	<p>①「マイホーム借り上げ制度」の周知</p> <p>②「空き家バンク」の共有</p> <p>③県移住セミナーへの参加</p> <p>④市政全体の観点から本事業に必要なアドバイス等を行うこと</p>		
事業終了後の方向性等	市民ニーズに対応できた点		
	<p>①市内都市部居住者の中山間地域への移住、二地域居住の実現</p> <p>②市内外からの移住者の増加による地域活性化の実現</p> <p>③遊休不動産の売買または賃貸化による経済効果の実現</p>		
3年間の総事業費と年度ごと内訳	行政の効率化につながった点		
	<p>①行政では対応が困難な個別の微細に至る相談ニーズに沿った対応。</p> <p>②個別の相談ニーズに応じた移住及び定住の実現。</p>		
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。</p> <p>市による中山間地域における取組の方向性11パッケージの1つに定める「移住・定住促進(里まち移住)パッケージ」による事業として、令和6年度以降も藤野観光協会とともに実施する方向で検討を進めている。</p>		
	3年間の総事業費と年度ごと内訳	14,981,115 円	令和3年度 4,411,051円 令和4年度 5,047,064円 令和5年度 5,523,000円
上記のうち市負担金	11,704,000 円	年度 3,922,000円 年度 3,891,000円 年度 3,891,000円	

事業の名称	「住んでみたいまち相模原」をめざす移住・定住促進事業
-------	----------------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

<b>A：協働の基本原則・・・</b> 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 行政がもつ社会的信用を生かしつつ、民間団体がもつネットワークや情報など地域特性に即した施策展開を協働の中で実現することができた。また、市の役割である広報に関する支援や各種事業との連携を積極的に推進し、効果的な事業展開を図ることができた。	自己評価			
		A			
<b>B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・</b> お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a	b	c	d
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a	b	c	d
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 随時必要なコミュニケーションをとりながら、実施状況の確認や意見交換をするなどし、良好な関係性を築きながら事業をスムーズに展開することができた。協働に当たって、双方とも特別な負担感はなく、事業を通じて双方の信頼関係はより増したものと考えている。	自己評価			
		A			
<b>C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！</b> (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだと思いましたか。(事業の必要性)	a	b	c	d
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a	b	c	d
12	事業に要した経費は適切なものだと思いましたか。(費用対効果)	a	b	c	d
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a	b	c	d
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いましたか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 社会的な地方移住への関心の高まりにより、当該事業は社会的要請に合致し、多くの移住者を迎える成果をあげることができたことから、事業実施の妥当性は非常に高く、緑区中山間地域における移住・定住の促進に向けて相応の役割を果たしたと言える。	自己評価			
		A			
<b>D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！</b> (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ

15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。 (協働の必要性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。 (役割分担の妥当性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。 (相乗効果)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。 (他団体や地域社会など外部への波及効果)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。 (市民力・自治力の向上)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	本事業による成果は、行政が担う発信力と公共性、民間団体が担う専門的かつきめ細やかな対応など、お互いの利点を協働の中で生かすことが必要であり、協働の取組を通じて多くの移住者を実現したと評価している。	A			

E: 20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
協働による事業は商業ベースではなく、一定の公共性をもって行われたため、移住希望者、不動産所有者の本事業への信頼は相当に厚いものであった。移住した後にも事務所にきて近況報告をして下さる方が少なくないが、これもそのことの証左である。	移住希望者の実情などを深く聞き取り、希望者に合ったきめ細かな相談対応や移住後のフォローなど、行政だけでは充実できなかった部分などを相互に補完できたと考える。

F: 21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
移住希望者の増加に対して空き地・空き家の利活用は思うようには進んでいない。そこには中山間地域特有の不動産に対する「固執」のようなものがある。これを取り除いて流通を円滑にしていくための協働は今後より改善していくべき点であろう。	藤野地区に対しては、十分な相談対応ができていたが、津久井・相模湖地区への物件対応がより充実できれば、更なる事業展開が期待される。

G: 22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
地域課題を解決する手法はいくつか考えらるが、私たちが経験した本事業は行政と団体がそれぞれの役割を尊重し、利点を生かしていくというものであり社会的信頼も大きなものがある。このような手法が様々な面で展開されることを期待する。	市だけでは対応できない地域の情報・ニーズを的確にとらえる団体と協働で事業を展開するメリットは大きい。双方の強みを生かすことができるため、非常に意義のある事業である。

H: 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
市の総合計画、緑区の基本計画はともに中山間地域の振興を謳い、そのための体制も整えられつつある。これまでの団体の実績を踏まえ、今後とも協働して人口減少時代の諸問題を解決し、「住んでみたいまち相模原」をめざしていきたい。	協働事業で得た、地域・団体・企業など様々な繋がりが、この事業の支えであると感じているので、引き続き、繋がりを大切に、幅広い視野と多様な発想で取組を進めていきたい。

1:24 取組の様子（写真とコメント） ※写真はできるだけ入れるようにしてください！

写真添付欄



コメント記載欄

令和5年度開催の移住体験ツアーの様子。本住宅に移住してきた方の移住に当たっての条件は「温泉から500m以内のところ」というものであった。幸運にも藤野やまなみ温泉から300mくらいのところへ土地を求めることができ、高齢でもあったことから平屋で使い勝手の良い住宅を新築した。このツアーの参加者は子どもを含めて26名、ツアーを通して移住後の生活の様子を具体的に聞くことができ、皆さんに十分満足していただけた。

写真添付欄



コメント記載欄

令和3年度に実施した中古住宅のインスペクション（住宅診断）の様子。中古住宅の購入に当たっては耐震など住宅の構造に問題点がないか確認し、結果によっては必要な工事を行うことになる。インスペクションに続いて維持保全計画を作成し、管理していく。これによって中古住宅購入者は安心して購入し、住むことができる

写真添付欄



コメント記載欄

地区約80年の古民家をリノベーションして移住した方の家。アメリカ人の夫と日本人の妻とその子どもたちが暮らす。リノベーションに当たっては設置されていた神棚を整理する必要があったが、日本の習慣にのっとり、神主をお願いしてお祓いをしていただいた。移住が思わぬ文化理解につながった例である。

写真添付欄



コメント記載欄

令和4年度に作成したパンフレット。本事業では中山間地域の自然環境にマッチした住宅、「里まちの家」を推奨しているが、このパンフレットはそれを実現するための具体的なガイドブックである。景観のみならず、自然素材の使用にもこだわる。

# 協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください →		5		
事業の名称	食品ロスと食の格差解消で、夢と希望が持てるまちづくり				
団体の名称	フードコミュニティ				
事業担当課	青少年学習センター、子育て給付課、資源循環推進課				
事業の概要	規格外や賞味期限間近の食材が廃棄されている一方、明日の食事にも困る世帯に食材を適宜配布することで循環型社会を実現させ、食の格差を削減することで、市民の暮らしの満足度を高めて、子どもや若者をはじめ誰もが生涯にわたり活躍でき、笑顔と希望があふれるまちを次代につなぐことを目指します。				
具体的な取組みの状況	<p>【子育て世帯への食材配布】</p> <p>令和3年度 配布世帯数（50世帯/月）          令和4年度 配布世帯数（65世帯/月）          令和5年度 配布世帯数（70世帯/月）</p> <p>【子ども食堂への食材配達】</p> <p>令和3年度 随時（月平均10件）          令和4年度 随時（月平均14件）          令和5年度 随時</p> <p>【食材の収集】</p> <p>令和3年度 フードドライブ品、フードバンク団体等（随時）          令和4年度 フードドライブ品、フードバンク団体等（随時）          令和5年度 フードドライブ品、フードバンク団体等（随時）</p>				
役割分担	<p>実施団体の主な役割</p> <p>【子育て世帯への食材配布】会場配布する食材の収集、食材セットアップ・会場の予約及び設営、会場での食材配布、対象世帯との連絡調整</p> <p>【子ども食堂への食材配布】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オギノパン、フードバンクかながわの食材集荷と配送・食材希望団体への連絡調整</li> </ul>				
	<p>市の主な役割</p> <p>【子育て給付課】事業の広報、申込み受付、対象世帯の審査及び抽選、審査及び抽選結果の通知</p> <p>【青少年学習センター】実施団体との協定締結事務、予算の管理、子ども食堂との連絡調整</p> <p>【資源循環推進課】実施団体へフードドライブ品の提供</p>				
事業効果	<p>市民ニーズに対応できた点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートでは7～8割の世帯が食材配布について、とてもよかったと回答。</li> <li>・行政と生活困窮の市民との橋渡しを担う活動であるため、市民への告知と支援世帯の基準、審査は行政が、市民に寄り添い食材を直接お渡しする事は実施団体が役割を責任をもって実施出来ていると感じている。</li> <li>・フードパントリー活動への理解が深まり、実施団体の活動に参加する人が出てきた。</li> </ul>				
	<p>行政の効率化につながった点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食材配布をきっかけに、パンフレットの配布等により他制度の案内を行うことで効率的に他制度へつなげることが出来た。</li> <li>・市民にフードロスについての啓発活動を行うことが出来た。</li> </ul>				
事業終了後の方向性等	<p>昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」</p> <p>今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。</p>				
	<p>来年度以降の方向性については、市の事業化に向け関係各課で検討中</p>				
3年間の総事業費と年度ごと内訳	3,882,861	円	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			1,520,632円	1,382,229円	980,000円
上記のうち市負担金	3,078,000	円	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			1,341,000円	1,052,000円	685,000円

事業の名称	食品ロスと食の格差解消で、夢と希望が持てるまちづくり
-------	----------------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

<b>A：協働の基本原則・・・</b> 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いとその目的を共有して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 協働事業の意義や役割分担について双方の認識の違いが生じた時は、都度状況を確認し、情報を共有しながら取り組んだ。行政とはこまめに連絡を取り、適切なアドバイスを受けている。活動支援の現場にも足を運んで頂くなどして、課題の共有と解決に向けて協力して取り組む事が出来ている。	自己評価			
		A			
<b>B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・</b> お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができましたか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができましたか。	a	b	c	d
8	負担感を持つことなく、協働することができたか。	a	b	c	d
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができましたか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 協働事業について、定期的に打合せの場を設けて課題について検討を行った。行政と生活困窮の市民との橋渡しを担う活動であるため、市民への告知と支援世帯の基準審査は行政が、市民に寄り添い食材を直接お渡しする事は実施団体が、それぞれの役割を責任をもって実施出来ていると感じている。	自己評価			
		A			
<b>C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！</b> (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったか。(事業の必要性)	a	b	c	d
11	設定した目標(目的)を達成することができたか。(目標達成度)	a	b	c	d
12	事業に要した経費は適切なものだったか。(費用対効果)	a	b	c	d
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたか。(市民満足度)	a	b	c	d
14	さらなる発展が期待できる事業だと思えますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 子育て家庭への食材配布は、アンケートでも利用者から概ね良好な評価を得ており、市民ニーズや社会的要請に対し答えることが出来たと判断している。今後については、事業コストや社会情勢の変化等を適切に捉えて事業展開していく必要があると考えている。	自己評価			
		A			

D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	食材の収集や配達、配布会場の運営は実施団体が、広報や受付等の事務は市が担う等、適切な役割分担で事業に取り組めたと考える。また、事業を実施することでフードパントリー活動の啓発にもなり、担い手の確保に繋がっている。 フードバンク事業は、寄付金や助成金に依存する割合が大きく、持続させていくためには、行政サイドや企業からの支援が必須であり、今後も連携して取り組んでいく必要がある。	A			

**E：20 協働のポイントー1** こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の定例会を持ち、毎月の成果について報告を行った他、メールなどにより常に課題を共有し、解決策を講じることができた。</li> <li>・課題については双方で話し合い、解決出来た。</li> <li>・子育て家庭への食材支援においては、その役割を果たす中で双方が協力し取り組むことが出来ている。</li> <li>・広報さがみはらの告知により、ボランティアが増えた。</li> </ul>	<p>実施団体と市、双方の強みを生かしながら協働事業に取り組むことで、多くの方に支援出来たと思います。アンケートでは、食事の量が増えて良かった、食費が浮いた分を子どもの他の費用に使うことが出来たという声が多くありました。</p>

**F：21 協働のポイントー2** ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会からその必要性を求められる中で、市民団体で行えるボランティア活動では限界があり、行政としてこうした事業の必要性を認識頂き、主体的に事業を継続できる仕組みを作っていただきたい。</li> <li>・協働事業では担当課の職務内での事業になってしまう為、協働事業から外れる、生活困窮世帯や高齢者への食材支援は、団体独自に行う必要がある。</li> </ul>	<p>今回、協働事業で実施できる事業規模が限られるため、子ども、子育て世帯への支援事業となりましたが、貧困対策として対象を幅広く支援出来る形が望ましいと感じました。</p>

**G：22 協働のポイントー3** これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体を立ち上げた最初の3年間は、相模原市市民・行政協働運営型市民ファンド「ゆめの芽」の助成を受けながら協働事業への道を模索した。</li> <li>・提案にあたっては、団体として何をしたいのかを明確にし、どの担当課がふさわしいか等、協働する担当課との事前協議が大切です。</li> <li>・事業開始後は、定期的に担当課とミーティングを行う。</li> </ul>	<p>御提案の事業は、協議していくうちに当初想定していたものとは違う形になることもあるかもしれませんが、やりたいことの取っ掛かりとして、利用していただくことが出来ると思います。</p>

**H：23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)**

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働事業終了後も、何らかの形で子育て家庭はじめ生活困窮世帯や高齢者世帯向けに、食材配布活動を継続していきたい。</li> <li>・団体独自の事業とするには、資金や保管場所等に課題があるため、行政サイドからの事業の継続のための支援が得られることを希望する。</li> </ul>	<p>地域の福祉活動として大変意義のあるものだと考えておりますので、公助の他、共助という観点からも、未永く活動を続けていただきたいと思います。</p>

写真添付欄



コメント記載欄

- 【食材集荷活動】**
- ・個人や各種団体・企業様からの 食材提供に応じ 随時集荷する。
- 【定期的な活動】**
- ・オギノパンの集荷と配送：月2～3回
  - ・セカンドハーベストジャパンの集荷：月1回
  - ・フードバンクかながわの食材集荷と配送：月2回
  - ・パルシステム神奈川の食材集荷と配送：月1回
  - ・相模原市資源循環推進課からのフードドライブ品集荷と配送：月1回
- 【不定期な活動】**
- ・相模原市農業協同組合からのフードドライブ品の集荷と配送：月1～2回
  - ・企業や団体・市民からの食材の提供：月2～4回

写真添付欄



コメント記載欄

- 【食材セットアップ活動】 (令和4年度)**
- ・フードドライブ品など頂いた食材を、賞味期限 食材の種類等に仕分けして保管する。
  - ・子育て家庭向けに、会場配布35世帯・戸配30世帯分をエコバックに詰め、さらにお子様3人以上の家庭には、多子世帯用袋をセットした。
  - ・会場配布の方には、農家様などからいただいた野菜類も、35世帯に出来る限り均等に袋詰めした。
  - ・子ども食堂向けにも同様に、要望があった分を段ボールに詰めて配布する。

写真添付欄



コメント記載欄

- 【食材配布活動】 (令和4年度)**
- ・市内の子ども食堂や無料学習塾への食材配布
  - ・オギノパンの配布：月2～3回
  - ・フードバンクかながわからの食材配布：月1回 (対象子ども食堂：4～5軒/月)
  - ・フードドライブ品の配布：随時
  - ・子育て家庭会場配布：月1回 (35世帯)
  - ・子育て家庭個別宅配：月1回 (30世帯・2～3軒/日)
  - ・農家様などからの野菜の配布：随時

写真添付欄



コメント記載欄

- 【食品ロス啓発活動】**
- ・ユニコムプラザ「地域づくり大学」での講座開催
  - ・学生対象の「食品ロス削減」に関する講座の開催
  - ・各種イベントへの参加
- 【事務活動】**
- ★会計業務
  - ・消耗品や設備品の会計処理
  - ★電話受付
  - ・食材提供依頼の対応
  - ・子育て世帯へのコールセンター受付の方の電話連絡
  - ★メール受け付け対応
  - ・フードバンクかながわ等からの食材提供明細の確認
  - ・食材提供の連絡 (登録団体へのメール配信)